

# 病虫害防除技術情報第1号

平成19年 5月18日

三重県病虫害防除所

1 対象作物: チャ

2 対象病虫害: クワシロカイガラムシ

3 発生時期: 5月下旬～6月上旬(第1世代幼虫孵化期)

4 発生状況

5月の巡回調査において、雌成虫の寄生株率は19.2%で、平年(11.3%)に比べやや多い状況でした。

防除時期を判断するため、県内各産地から採集してきた雌成虫を室内飼育して、第1世代幼虫孵化状況を観察したところ、5月16日で産卵雌率82.8%、孵化卵塊率25.0%でした。

科学技術振興センター茶業研究室の観察では、5月16日に産卵雌率89.3%、孵化卵塊率16.0%で、孵化を確認しました。

5月13日までの主産地(四日市、亀山、粥見)付近の気象データを使ってシミュレーションすると、孵化のピークは5月23日～25日頃となります。

5 防除対策

(1)発生状況から、孵化のピークは5月25日頃に迎えると予想されるため、薬剤防除の適期と判断されます。

(2)幼虫孵化最盛期が防除適期になりますが、幼虫は日数の経過とともに、ロウ物質で体を覆い薬剤が虫体に到達しにくくなります。防除適期幅は約1週間と短いため、時期を誤らないように防除を行ってください。

(3)ただし、摘採等の関係で現在防除できない園があります。そのような園では今回の防除は見合わせ、次回(7月中下旬)に防除してください(次回も同様に防除時期をお知らせする予定です)。

(4)地域により、孵化時期は異なるので、自園の孵化状況をなるべく確認して防除してください。

(5) 薬液が枝に充分かかるよう丁寧に散布してください。

(6) 周囲の作付状況に留意し、飛散のないように散布を行ってください。

(7) 薬剤防除は、茶のクワシロカイガラムシに登録のある薬剤を用いて行ってください。薬剤調合の前には、再度ラベルの内容(使用時期、使用回数、使用濃度)を確認して下さい。

通称の農薬名称	農薬の種類名	希釈倍数	毒劇	魚毒性	使用時期	本剤の使用回数	成分の総使用回数	第2成分の総使用回数	散布液量
アブロードエースフロアブル	フェンピロキシメート・プロフェジン水和剤	1000倍	普	注: 魚毒	摘採14日前まで	1回以内	1回以内	2回以内	
アブロード水和剤	プロフェジン水和剤	1000倍	普		摘採14日前まで	2回以内	2回以内		
アブロードフロアブル	プロフェジン水和剤	1000倍	普		摘採14日前まで	2回以内	2回以内		1000L/10a
スプラサイド乳剤40	DMTP乳剤	1000~1500倍	劇		摘採14日前まで	1回以内	1回以内		
ダーズバン乳剤40	クロルピリホス乳剤	1000倍	劇	注: 魚毒	摘採14日前まで	2回以内	2回以内		
ダニトロンフロアブル	フェンピロキシメート水和剤	1000倍	普	注: 魚毒	摘採14日前まで	1回以内	1回以内		1000L/10a
MR.カルホス乳剤	イソキサチオン・シラフルオフェン乳剤	1000倍	劇		摘採21日前まで	1回以内	1回以内	2回以内	200~1000L/10a
カルホス水和剤	イソキサチオン水和剤	1000倍	劇		摘採21日前まで	1回以内	1回以内		
カルホス乳剤	イソキサチオン乳剤	1500倍	劇		摘採21日前まで	1回以内	1回以内		
スミロディー乳剤	フェンプロバトリン・MEP乳剤	1000倍	劇	注: 魚毒	摘採21日前まで	1回以内	1回以内	1回以内	
ホスクリン	イソキサチオン・メソミル水和剤	1000倍	劇		摘採21日前まで	1回以内	1回以内	2回以内	
ホスパーク乳剤	イソキサチオン・DDVP乳剤	1000倍	劇		摘採21日前まで	1回以内	1回以内	3回以内	

農薬の適用内容は、平成19年5月16日現在